（別紙4）　　令和　2　年度

# 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---|---|---|---|
| 事業所番号 | 0971300017 | | |
| 法人名 | 医療法人　渡部医院 | | |
| 事業所名 | グループホーム和　秋冬ユニット | | |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市大原間72-1 | | |
| 自己評価作成日 | 令和2年8月25日 | 評価結果市町村受理日 | 令和2年10月23日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

| | |
|---|---|
| 基本情報リンク先 | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/09/index.php |

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|---|---|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人アスク |
| 所在地 | 栃木県那須塩原市松浦町118-189 |
| 訪問調査日 | 令和2年9月24日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

・入居者ができないことをどうするのかではなく、できること・わかることをどう活かしていくかを重要視して日々関わっている。
・本人の声・思いを大切にしながら、うれしい、楽しい、おいしいと感じれるケアを実践している。そして寄り添った結果、入居者が癒される環境であってほしいと願っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

（春夏ユニットの評価結果報告書に記入）

## Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25） | | 1. ほぼ全ての利用者の |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいの |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいの |
| | | | 4. ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38） | ○ | 1. 毎日ある |
| | | | 2. 数日に1回程度ある |
| | | | 3. たまにある |
| | | | 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | ○ | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31） | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28） | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |

| | 項　目 | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|---|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19） | | 1. ほぼ全ての家族と |
| | | ○ | 2. 家族の2/3くらいと |
| | | | 3. 家族の1/3くらいと |
| | | | 4. ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20） | | 1. ほぼ毎日のように |
| | | | 2. 数日に1回程度 |
| | | ○ | 3. たまに |
| | | | 4. ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4） | | 1. 大いに増えている |
| | | | 2. 少しずつ増えている |
| | | ○ | 3. あまり増えていない |
| | | | 4. 全くいない |
| 66 | 職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12） | | 1. ほぼ全ての職員が |
| | | ○ | 2. 職員の2/3くらいが |
| | | | 3. 職員の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての利用者が |
| | | ○ | 2. 利用者の2/3くらいが |
| | | | 3. 利用者の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | | 1. ほぼ全ての家族等が |
| | | ○ | 2. 家族等の2/3くらいが |
| | | | 3. 家族等の1/3くらいが |
| | | | 4. ほとんどできていない |

# 自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅰ.理念に基づく運営** | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 「住み慣れた地域で生活を継続することの支援」という理念があり、他の理念とともに数ヶ所に掲示し、スタッフは常に意識して実践している。 | （春夏ユニットの評価結果報告書に記入） | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 散歩や毎日のスーパーへの買い物時、近隣住民の人と会った際は、挨拶をし、なるべく会話をするようにしている。又、地域の盆踊り等、催し物に参加していたが、今年度に限り新型コロナウイルス感染拡大防止のため交流を自粛している。 | | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 中高生のボランティアや大学生の実習を積極的に受け入れ、認知症の人の理解や支援方法を伝えているが、それ以外、地域の人に向けての活動ができているとはいえない。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 2ヶ月に1回の頻度で運営推進会議を開催しており、会議では評価への取り組みを含め、入居者・家族等のさまざまな意見を参考にサービス向上に活かしている。 | | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | 市担当者と直接または、電話や電子メールみにて適宜さまざまな情報や取り組みを伝え、共有している。運営推進会議・地域密着型事業者連絡協議会・那須塩原市ケアマネ連絡協議会においても、随時連携を図っている。 | | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 開所時から現在まで身体拘束はしていない。全ての職員は、身体拘束適正化のための指針を十分理解しており、11項目ある禁止の対象となる具体的な行為を把握している。定期的な勉強会も行っており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている | 認知症介護指導者である管理者は、認知症介護実践者研修において高齢者虐待に関する講師を行っており、関連法を熟知している。また、スタッフにも適宜指導している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 管理者や数名のスタッフは、すでに権利擁護に関する研修に参加し理解を深めている。現在1名の入居者が成年後見制度を利用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居時の契約は、管理者が対応しており、一つひとつ時間をかけて分かりやすく説明して納得の上、契約を結んでいる。また、料金改正・加算改正等の変更時も説明し同意を得ている。 | | |
| 10 | （6） | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 玄関内に意見箱を設置したり、外部の苦情受付機関を明記し意見を表せる体制を整えている。 | | |
| 11 | （7） | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 管理者は、日常においてスタッフの意見を聞く努力をしている。また、不定期に開催している全体会議、年2回実施している個人面談、毎月実施しているユニット会議等で、スタッフが意見や提案を言える機会がある。 | | |
| 12 | | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 人事評価制度を導入しており、年2回のボーナスや年1回の昇給額に査定され向上心を持って働けるように努めている。給与保障面だけでなく、研修・勉強会などを通し仕事の楽しみ方等を考える機会を作っていきたい。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 職員が認知症介護実践者研修を受講するよう研修に申し込んでいる。事業所内に専門課程2名、基礎課程8名が研修終了している。更に管理者は、認知症介護指導者養成研修も終了している。また、スキルアップを図る為のテキストや参考書を休憩室に整備している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 市のケアマネージャー連絡協議会に管理者や計画作成担当者が参加したり、地域密着型サービス事業者連絡会議等で交流する機会があり、さまざまな情報交換や連携を図る取り組みをしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援** | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居者本人が安心して入居できるように、必要があれば何度でも面会し本人のさまざまな言動を受け止め初期の段階で信頼関係を築けるよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 本人のみならず、家族の希望や意向等も十分聞き、必要であれば電話だけではなく、自宅へも出向いて相談の機会を設けている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 相談時に見極め、必要に応じて各種機関と連携する用意がある。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 毎日の買い物や食事作り、清掃等、スタッフと入居者が協力し合い、共に行うという関係を築いている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族の面会時には、入居者の様子や変化を報告するなどして、情報を共有している。 | | |
| 20 | （8） | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 自宅への外出やお墓参り等、現在のところ家族が対応している。他に、温泉や美容室等、馴染みの場所があればいつでも行ける用意はある。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 良好な関係が継続できるよう支援している。入居者間のトラブルがあった時には、その原因を把握し必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の入居者に不安や支障を生じさせないようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 同法人の老人保健施設秋桜の家に転居となった方には、面会に行っている。また、施設の行事（餅つき等）に来たり、野菜を持って来て下さる家族がいる。 | | |
| **Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント** | | | | | |
| 23 | （9） | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 一人ひとりの思いや意向は、日々の生活の会話の中から引き出し、把握に努めている。重度の認知症があり、把握が困難な場合は、これまでの生活暦や家族等からの情報を参考に検討している。 | | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居前に、家族・本人に聞き取りをして記録している。また、家族にはセンター方式の記入を協力して頂き、把握に努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 本人のできる力、分かる力を暮らしの中で発見し、その力を発揮できるよう生活に取り入れ、自立支援を念頭に置きながら総合的に把握している。 | | |
| 26 | （10） | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | アセスメントツールとして、センター方式を活用しており、本人の声、本人の思いを十分反映して、その人にとって何が大切なのかを具体的に明らかにした介護計画を作成している。家族等の思い、意向も参考にして十分話し合っている。 | | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 日々の介護や介護計画に反映させるために、入居者一人ひとりの様子や変化等を具体的に、ケアプラン内・ケアプラン外に分けて記入している。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 訪問マッサージや訪問歯科診療、訪問美容室等、ニーズや希望に応じて柔軟に支援している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 傾聴ボランティアの活用や、消防職員を含めた定期的な消防訓練を実施しているが、地域資源を積極的に取り入れているとはいえない。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時に希望する医療機関を確認している。その医療機関において、定期受診を行っている。 | | |
| 31 | | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | スタッフは、入居者の体調面で些細なことであっても、随時看護師に報告している。又、適切な受診や看護を受けられるように医療機関と連携している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は家族の承諾のうえ、医療機関に本人に関する情報提供を行い、継続したケアができるようにしている。また、入院中、病院へ行って手術後の様子を確認したり、退院に向けての相談を行い病院関係者と協働している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入居される早い段階において、終末期のあり方、重度化した場合の対応について、事業所ができること・できないことを説明しており、家族の理解を得ている。数名の入居者は、現在ターミナルケアを実践している。 | | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 入所時から終末期、重度化した場合にどうしていきたいかを入居者ごとに家族に確認と書式にして残している。時間が経ち又は状況によって家族の希望も変わることもあるので、レベルの変化ごとの確認は今後も行っていく。緊急時対応マニュアルも整備されている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | グループホームの消防法により平成22年にスプリンクラーの設置。災害時などのマニュアルがあり、避難訓練は定期的に年に2回、日中と夜間想定で行っている。又、地域（消防団など）に協力体制を依頼している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| **Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援** | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 理念にも掲げている「個人が尊厳される生活」を大切にしてる。言葉かけや接遇に関して、スタッフ1人ひとりが意識して対応している。 | | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人の生活暦やこれまでの暮らし等の情報から、職員はさまざまな言葉による引き出しを持っており、本人の意思が表出できるようにしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | できる限り、本人のペースを大切にした支援を行っているが、勤務帯で手薄な時間に本人のペース・希望に添えない時がある。スタッフは業務中心にならないよう入居者一人ひとりを常に意識するよう心掛けている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | その日に着る洋服は、自分で好きな物を選んで頂くよう援助している。理容・美容に関しては、本人の意向に応じて外出したり、経験のあるスタッフがカットしている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている | 入居者一人ひとりのできる力に応じて、食事に関する一連の作業、買い物、調理、食事、後片付けを一緒に行っている。又、食に関する個人の好みを把握し、献立に反映している。 | | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 重度化し、食事摂取の理解が出来ず、なかなか食べれない方には、その日のレベルに合わせ、食材の大きさを調整したり、食事摂取に集中できるよう、環境設定を調整したり、又は介助を行ったりしている。嗜好の問題で、食べない方へも代替提供している。一人ひとりの状態、希望に合わせた、食事の支援が出来ている。水分摂取もお茶の時間以外にも希望にあわせ、好みの物を飲んで頂いているが、摂り過ぎてしまい浮腫著明な方には、調整を図っている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後はできていないが、1日2回、朝と夜に口腔ケアを実施している。義歯を使用している入居者は、夜間入れ歯洗浄剤を使用し預からせて頂いている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターンを把握している。又、それに合わせて定時にトイレ誘導を行って、オムツを使用している入居者でもできるだけトイレにて排泄できるよう支援している。 | | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 下剤等の薬だけに頼ることなく、便秘気味の方には、水分を多く摂取して頂いたり、腹部マッサージの実施や、リハビリ体操・散歩等の適度な運動を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 入浴の時間帯は基本的に9：00～21：00位だが、希望があれば深夜を除きいつでも入浴できる。 | | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 日中は、活動と休息を交互に取り入れ、本人にとって自然なリズムで過ごして頂いている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 内服の確認表があり、薬を出す時と内服の際にダブルチェックしている。各入居者の服薬内容の説明表をファイリングし、確認できるようになっている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家事活動に生きがいを感じている方、散歩で気晴らしをされる方、得意の畑仕事を行ってくださる方、それぞれに対応している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 散歩や行事企画にての外出援助を行っているが、家族や地域の人々と協力しながらは出来ていない。又、新型コロナウイルス感染拡大防止のため今年度に限り外出を自粛している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項　目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|---|---|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 現在、1名の入居者が金銭を自己管理している。希望や本人の能力に応じて随時検討し、所持できるよう支援する用意がある。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 家族への電話の希望がある場合、内容を聞きスタッフが代行して対応することもあるが、直接本人が話をする時もある。現在手紙を書く入居者が1名おり、支援できている。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 季節を感じることができるものを常々置くようにしている。フロアー・各居室に湿温計を設置し、快適な生活環境になるよう支援している。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間には、テーブルの椅子、ソファー、こたつの3つのスペースがあり、入居者が自分の居場所をそのときどきの生活場面において選択している。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 入居時に本人・家族と相談し、使い慣れた家具や生活用品、装飾品等を持ち込むようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 居室の場所を間違えないよう、居室のプレートがあり名前をフルネームで記載している。トイレなどは、一般的なマークで表示し混乱を防いでいる。それでも、間違ってしまう場合は、声かけで対応している。 | | |